

記 者 発 表 資 料
平 成 2 3 年 6 月 2 3 日
環 境 対 策 課 大 気 環 境 班
担 当 横 田 庄 子
内 線 2 6 6 5

東日本大震災の被災地におけるアスベスト モニタリング調査の結果について

東日本大震災による津波の被害が甚大だった県内沿岸部の 10 市町において、大気環境中のアスベストモニタリング調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

1 調査の目的

倒壊した建築物等からの粉じんの飛散が懸念されるため、避難所など被災した地域で生活している住民の生活環境への影響を把握するため実施しました。

2 調査の期日

平成 23 年 6 月 1 日から 6 月 16 日まで

3 調査の方法

環境省が定めたアスベストモニタリングマニュアル第 4.0 版（平成 22 年 6 月）により調査を行いました。

試料の採取は宮城県保健環境センターが行い、測定は、社団法人日本作業環境測定協会のボランティア測定制度を活用し、株式会社日新環境調査センターの協力をいただき実施しました。

4 調査結果の概要

アスベストを含む無機総繊維数濃度は、別表のとおり 1 リットルあたり 0.056 ~ 0.79 本であり、通常の大気環境と同様の値でした。

アスベストモニタリングマニュアル第 4.0 版では、総繊維数濃度が 1 リットルあたり 1 本を超えたものについて電子顕微鏡でアスベストを同定することとされていますが、全ての地点で総繊維数が 1 リットルあたり 1 本以下でしたので、アスベストの同定は行いませんでした。

5 今後の予定

今後、被災した建築物の解体作業等が増加してまいりますので、引き続き、大気環境中のアスベストモニタリング調査を実施し、結果を公表してまいります。

6 建築物の解体作業等にあたって

被災地の生活環境においては通常の大気環境と同様の結果でしたが、建築物の解体作業やがれきの撤去作業現場では粉じんが飛散している場所もあると考えられますので、作業される方は、安全靴、ゴム手袋、ヘルメット、適切な規格の防じんマスク及びゴーグルなどを着用し、身の安全の確保に努めるよう、お願いいたします。

表 アスベストモニタリング調査結果

番号	市町村	地点名	試料採取日	無機総繊維数濃度 (本/L)	備考
1	山元町	山元町役場坂元支所 (坂元公民館)	H23.6.1	0.45	避難所
				0.11	
2	亘理町	亘理町役場	H23.6.1	0.17	避難所周辺
				0.056	
3	岩沼市	岩沼市総合体育館	H23.6.16	0.17	応急仮設住宅 周辺
				0.11	
4	名取市	名取市文化会館	H23.6.14	0.11	避難所周辺
				0.17	
5	多賀城市	多賀城市大代地区公民館 (市立図書館大代分室)	H23.6.14	0.22	住宅地周辺
				0.11	
6	東松島市	東松島市矢本東市民センター	H23.6.6	0.22	避難所
				0.11	
7	石巻市	石巻市立湊中学校	H23.6.7	0.22	避難所
				0.34	
8	女川町	女川町立第二小学校	H23.6.8	0.17	避難所
				0.79	
9	南三陸町	宮城県志津川高等学校	H23.6.9	0.17	避難所
				0.11	
10	気仙沼市	気仙沼市立鹿折中学校	H23.6.15	0.11	避難所, 応急 仮設住宅
				0.11	

1地点につき、100m から 200m 離れた 2箇所で調査を実施しています。

無機総繊維数濃度とは、測定の妨害となるおそれのある木質等の有機繊維を低温で燃焼させて除去した後に、アスベストを含む無機繊維の数を位相差顕微鏡で測定したものです。

【参考】

大気汚染防止法に基づく石綿製品製造工場に対する敷地境界基準：10本/L（リットル）

WHO 環境保健クライテリア（EHC 53）：「都市における大気中の石綿濃度は、一般に1本以下～10本/Lであり、それを上回る場合もある。」「一般環境においては、一般住民への石綿曝露による中皮腫及び肺がんのリスクは、検出できないほど低い。すなわち、実質的には、石綿のリスクはない。」